

平成23年度町田市立真光寺中学校学校経営方針

昭和55年に開校し、保護者と地域の皆様に支えられた町田市立真光寺中学校は、平成22年11月6日に、開校三十周年記念式典を挙げる事ができました。本校は3度目の節目を越え、新しい歴史を刻み始めました。

真光寺中学校 教育目標

未来への展望に立ち、人権尊重の精神を基に、主体的に学び思いやりの心を大切にし、よりよい生き方を目指す生徒を育成するため、次の目標を定める。

「真剣に学び、自然や人を愛し、たくましく生きる。」

期待する生徒像

教育目標の実現をめざし、具体的には次のような生徒の姿を追求し、日々の教育活動の推進と充実を図る。

- ☆ 向上心を持ち、意欲的に学ぶ生徒
- ☆ 人を思いやる心を持ち、他と協働できる生徒
- ☆ 社会性と高い規範意識をもつ生徒

経営重点方針

Ⅰ 学校としての基本姿勢

1. 教職員の基本姿勢

- ① 次代の担い手を育成しているという社会的使命感を強くもち、職務を遂行する。
- ② 教育公務員（学校職員）として、高い識見や信頼に値する言動が求められることを認識し、日々の職務遂行にあたる。
- ③ 教育活動について明確に説明責任を果たす。
- ④ 教育公務員（学校職員）として、生徒・保護者・地域等へ誠実な対応を心がけ、迅速・親切・丁寧な対応を実践する。
- ⑤ チームワークを大切にし、組織として最大の教育力を発揮すること追求する。
- ⑥ 社会の動き、教育改革の流れに敏感に対応できるよう、継続的な研修を行う。
- ⑦ 経費執行（私費を含む）において費用対効果を追及し、効率的な学校運営や保護者負担の軽減を図る。

2. 保護者と共に子どもを導く

- ①生徒の学校生活及び家庭生活について詳細な情報交換を行い「より良く育てる」ことを目標に、それぞれの役割分担を明確にし、教育活動を推進する。
- ②学校教育に関して保護者の意見・要望を傾聴する姿勢で臨み、同時に学校としての考えを明確に示す。
- ③家庭教育に関する課題については改善を求め、積極的な啓発活動を行う。
- ④PTA活動等、保護者の活動を積極的に支援し、保護者のネットワーク強化を目指す。

3. 地域に根ざし、地域の未来を担う

- ①地域人材を教育ボランティアとして積極的に招聘し、地域の教育力を生かした教育活動を展開する。
- ②生徒を地域行事等に積極的に参加させ、地域の一員としての意識を高める。
- ③教職員も地域行事により積極的に参加し、情報交換に努め、教育活動への反映を心がける。
- ④問題行動等に関しては積極的に情報発信をし、地域の課題として、町内会等への働きかけを行い、共に解決を図る。

II めざす学校像

1. 授業に真剣に取り組み、一人一人の能力の伸長を図る学校

- ① 生徒一人一人を的確に把握し、基礎的・基本的な学力の伸長を図る。
 - △ 基礎的・基本的な学力の的確な把握に努めるとともに、少人数指導、TT、補充学習、特別支援等の工夫により個に対応した指導の充実を図る。
- ② 指導計画・方法の改善を図り、生徒の学習意欲を高める。
 - △ ねらいと評価規準を明確にし、指導計画・方法の改善を進め、生徒一人一人に学習に対する目標を持たせ、意欲的な学習姿勢を培う。
- ③ 授業への取り組みをしっかりとさせ、真剣に学ぶ態度を育てる。
 - △ 「時間を守る。」「忘れ物をしない。」等の授業規律確立のための指導を徹底し、積極的かつ真剣に授業に取り組む姿勢を培う。
- ④ 家庭学習の習慣を促進する。
 - △ 基礎学力の定着のために家庭との連携を強め、適切な学習課題を与えるなど、家庭学習の啓発および学習習慣の促進を図る。
- ⑤ 自己の考えを正しく伝える能力を育成する。
 - △ 自己の考えを積極的に発表する場面や意見交換の場面を多く設定するなど、自己表現能力の育成を図る。
- ⑥ 読書活動を充実させ、言語能力の向上を図るとともに豊かな情操を養う。
 - △ 朝読書の実施など読書活動の機会を増やし、一人一人の読書量を増加させる。これにより、言語能力の向上と豊かな情操を養い、すべての学習活動の基礎を培う。
- ⑦ 教育ボランティアを活用した補充学習を実施し、一人一人の学習欲求に応える。
 - △ 教育ボランティアを積極的に導入し、放課後や長期休業中に補充学習の機会を保障し、一人一人の能力の向上を図る。
- ⑧ 特別支援教育の校内体制を確立させ、個に応じた指導の充実を図る。
 - △ 特別支援教育のモデル校として指導体制を確立させ、適切な個別の指導計画の策定およびその推進を図る。

2. 落ち着いた環境の中で自他を大切に作る学校

- ① 人を大切にする心と態度を育むとともに、自己肯定感を持たせる。

△ 人権尊重の理念のもと、道徳の授業及び日々の指導の充実により、心の教育を推進する。

② 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、人の話を聞く態度を育てる。

△ 「あいさつ・言葉使い・服装等」に関する指導を徹底し、規範意識の醸成に努め、人の話を正しく聞く姿勢を育てる。

③ 清掃を徹底し、環境整備に努めるとともに、施設・設備の整備を進める。

△ 「きれいで、心が落ち着く環境」をつくるため、清掃の指導を徹底し、施設・設備の改善を推進する。

3. 社会性や協同の精神を育む学校

① 様々な体験活動を通して、自主性や社会性を身に付けさせる。

△ 総合的な学習の時間や特別活動において、社会体験・自然体験等の活動を工夫し、社会貢献の精神やボランティア精神を培うとともに、より良い社会をつくらうとする態度を育成する。

② 学校行事や諸活動により協力の重要性を学ばせ、達成感や充実感を味わわせる。

△ 「国際交流の日」や「体育祭」、「合唱祭」等の諸行事、生徒会活動、部活動等において、生徒の主体的活動を促進し、協同の精神を養う。

③ 特別活動や各教科の学習等を通して、自己の生き方・在り方を学ばせる。

△ 進路指導・キャリア教育の充実を図り、勤労観や職業観を育み、生徒一人一人が自己の夢や目標の実現に向けて努力をする姿勢を育成する。

4. 非行やいじめのない、安心・安全な学校

① いじめや問題行動の早期発見に努め、組織的な生活指導を行う。

△ 全教職員が「いじめ」「問題行動」に関して鋭敏な感覚をもち、情報交換を密にし、共通理解に基づいた迅速な対応を実現する。

② 保護者、関係諸機関等との連携を密にし、信頼関係に基づく生活指導を行う。

△ 共通理解のもとに指導の一本化に努め、一人一人の生徒に合わせて、家庭と学校が一体となった指導を目指す。

③ 不登校生徒への指導に十分な配慮を行い、不登校の根絶を目指す。

△ 保護者、関係諸機関等との連携に配慮し、個々の状況に合わせた指導の充実にも努め、不登校生徒のいない学校を目指す。

5. 生徒や保護者が相談しやすい雰囲気のある学校

① 保護者の思いを受け止め、迅速・親切・丁寧な対応に徹する。

△ 保護者の思いや要請を的確に受け止め、迅速・親切・丁寧な回答を示し、実践することにより「信頼できる学校」の実現に努める。

② 全教職員による相互補完を図り、生徒理解に努める。

△ 全教職員が生徒の変容に敏感になり、相互に連絡・相談を確実に行うことにより、生徒理解を深める。

③ スクールカウンセラーとの連携を進め、総合的な教育相談機能を充実させる。

△ スクールカウンセラーや関係諸機関等に、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気醸成し、様々な角度から教育相談機能が働く環境を整える。

6. 家庭や地域社会と共につくる学校

① 保護者との連携を深め、生徒の教育環境の改善に努める。

△ 家庭との連絡をより緊密にし、生徒指導に関する情報を共有し、双方がすべき事柄を協議し実践することにより、指導の効果をより高める。

② 地域社会、関係諸機関等との連携を推進し、教育活動の充実を図る。

△ 地域の団体や関係諸機関等との積極的な連携推進により、学習支援等への人材活用の充実を図る。また、地域行事への生徒の参加を促進し、地域社会への帰属感を高めるのと同時に、地域社会の活性化に貢献する。

③ 鶴川第四小学校との連携を推進し、教育活動の充実を図る。

△ 教育課程の編成・実施、不登校及び問題行動等への対応、スポーツ交流など、鶴川第四小学校との連携をより一層推進し、小・中の円滑な接続を目指す。

④ スクールボードによる学校評価を生かし、教育活動の一層の充実を図る。

△ 保護者やスクールボード理事会による学校評価を真摯に受け止め、教育活動の改善・充実に生かす。

本年度の重点実施事項

- ① 教材・指導方法を工夫した「わかる授業」で一人一人の学力を高める。
- ② いじめ・不登校の根絶を目指し、すべての生徒に適正な学習環境を保証する。
- ③ 「あいさつの真中」「きれいな真中」を維持発展し、保護者や地域の方が気持ちよく訪問できる学校にする。
- ④ 読書活動及び発表活動の充実を図り、言語能力の向上と積極性を養う。
- ⑤ 教育ボランティアの積極的活用で、地域人的資源の充実と発掘を図る。
- ⑥ 鶴川第四小学校及び地域団体等との連携を推進・充実させる。
- ⑦ 予算の効率的な執行により、施設・設備を改善し、一層の活用を図る。

達成目指す数値目標と方策

平成22年度の「保護者による教育活動についてのアンケート結果」を踏まえ、次の項目の達成を目指す。

- ① 「校内清掃が行き届いている」への肯定評価を80%以上（昨年度74.7%）
- ② 「生き方や進路に関する教育をしっかりと行っている」への肯定評価を70%以上（昨年度60.7%）
- ③ 「ホームページによる情報発信は適切な内容になっている」への「E・分からない」を30%以下（昨年度43.2%）

保護者会や学校公開等のあらゆる機会をとらえて学校の状況を伝え、また、学校行事やPTA行事への参加呼びかけを常に心がける。学校だよりや学年だより等による情報発信を密にし、ホームページの周知も図る